

平成30年6月17日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26750100

研究課題名（和文）“離島”における持続可能な博物館活動新モデルの構築を目指した基礎的研究

研究課題名（英文）A basic research aimed to build a new model for sustainable museum activities in "isolated islands."

研究代表者

川宿田 好見 (Kawashukuda, Yoshimi)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：40616166

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：博物館が多い日本でも、博物館の設置はおろかアウトリーチ活動の恩恵にさえ与ることが困難な地域は多い。そうした地域での持続可能な博物館活動のモデル構築を意図して、考古学的・歴史的資源の掘り起しと意義づけ、住民と協同した展示や三次元記録活動などを2つの離島で実践した。その結果、歴史への関心の向上、住民の誇りや意欲の回復などを窺うことができるなど、現代に必要な博物館活動のあり方に関して多くの知見を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：Although there are numerous museums in Japan, many regional communities living on isolated islands are deprived of such facilities and do not benefit from any of the outreach activities. With the aim of building a model for sustainable museum activities in such regions, we qualified it as finding archaeological and historical resources, and cooperated with residents to hold exhibitions and performed three-dimensional recordings in two isolated islands. We were able to gain much knowledge about the meaning of museum activities that are necessary in contemporary times, such as increasing people's interest in history and restoring local residents' pride and curiosity.

研究分野：考古学、博物館学

キーワード：パブリック考古学 博物館活動 地域活性化 離島 文化財 三次元計測

1. 研究開始当初の背景

博物館活動に関連して、例えば **public archaeology** など、世界的に“**public**”を標榜する活動が行われている。ティーチングパッケージを主ツールとした学校教育の実践などは、その好例といえる。申請者が以前実施したカナダの現地調査でも、博物館が先進的教育プログラムで住民の強い支持を得ており、博物館が住民の誇り・アイデンティティの醸成に役立つことが判明している（川宿田2007）。こうした動向と相俟って、アウトリーチ活動も国内外で活発である。しかし、離島などアウトリーチが及ばない、あるいは及びにくい地域も現実には存在し、地域間の格差が逆に大きくなっているという皮肉な現状があると考えられる。

以上を踏まえれば、より積極的に、博物館設置が困難な離島でも、学校等の既存施設や廃校などを利用して住民全体を巻き込んだ博物館活動の拠点とするのが有効であり、“**public**”な活動と博物館概念の柔軟な運用を視野に入れた取り組みで、高次で効果的な博物館活動の段階へと至ると確信されるのである。自治体においては、文化財の活用や地域の歴史に関する取り組みが不十分で文化財等の地域の遺産が散逸の危機に瀕している所があり、地域の失われゆく文化的資源（現物・記憶・情報）に対処することは喫緊の課題である。離島においては、過疎・高齢化・低所得・教育の困難・補助金依存等、自立を妨げる問題を抱える例も多く、博物館リテラシーの面でも同様であることをかんがみれば、挑戦的活動が求められる。

2. 研究の目的

そこで、新たな博物館活動の実践を通じて、離島の抱える問題解決への一助ともなるような普及可能なモデルの構築が求められる。地元の埋もれた文化的資源を掘り起こし、その意義づけや深い理解を通じて誇りとアイデンティティの回復につなげることがまず必要である。また、地域振興だけでなく、博物館活動でも地域住民による主体的活動が重要と考えられ、住民が質の高い活動を継続できる持続可能なシステムを目指す必要がある。

かかる認識に立つ研究の基礎として、平成23年度より「“極小規模離島村”における持続可能な博物館活動モデル構築のための実践的研究」（研究活動スタート支援、研究代表者 川宿田好見、課題番号 23800069）を実施し、経験を蓄積するとともに基礎的な成果を得た。本研究はそれを発展させ、香川県小豆島町と鹿児島県三島村という背景・規模の異なる島嶼地域を対象として比較検討をする。様々な方法を試みつつ資料調査、聞き取り調査を実施したり、既存施設等を利用して展示作業・解説等を行い発表会等も実施したりするなどして、住民の誇り・アイデンティティの「拠り所」の構築に配慮する。そうし

た実践的活動を通じてデータを得て、上記のモデル化に資するものである。

3. 研究の方法

前述のように、背景と規模の異なる2つの島嶼地域を対象とした。まず、文化財の現況を把握すると同時に、埋もれた文化的資源の掘り起こし、資料化、意義づけなどを、小学生を含む住民参加で実施した。研究代表者自らが調査研究を行うことはもとより、住民が活動などを継続できるように、住民と専門家間のコーディネートなどにも配慮した。以上をもとに「自前の資料・自前の展示」を基本とし、博物館の代替施設としての学校等での展示活動を可能な限り住民参加としながら実施した。また、記録には三次元計測、レプリカ作成には3Dプリンタを多用した。計測には多数の写真を解析して3Dモデルを生成するSfM-MVSの手法を採用することで、小学生も参加できるようにした。こうして、ミュージアムパッケージのコンテンツとなるレプリカ作成を行うなどした。

そうした諸活動に際して、過程を記録し、アンケートや聞き取りを行うなどし、参与観察による情報の解析などもあわせて多面的に考察した。こうして、全体を通してモデル構築に資するように配慮した。

4. 研究成果

対象とした2つの地域で、特徴ある重要な文化財等が多く見出せた。既知の文化財の資料化については、住民自らが参加する三次元記録活動を実施したが、特に小豆島では小学生やその保護者と一緒にSfM-MVSによる三次元モデルの一連の作成過程を本格的に行った。解析の元となる写真撮影は多少コツをつかめば小学生でも十分可能であることや、それは3Dレプリカの作成に耐える品質も実現しうることがわかった。また、三次元計測は子どもを含む住民の興味をひくことから、文化財（動産・不動産を問わず）への注意を向けるのに有効なツールでもあるといえる。このように三次元計測は、地域の文化資源の記録やデジタル保存に非常に優れているばかりでなく、地域住民が文化資源を「興味深いコンテンツ」として認識したり、積極的に活動をするための仕掛けとして使用できる



住民を対象としたワークショップの様子



小学生による3D計測用写真撮影



上：地域に残る大坂城石垣用残石
下：三次元計測データから作成した残石のレプリカ。残石どうしの接合を確認できる。

と判断された。

本研究では、そうしたコンテンツを含む展示・解説などの活動を、地域や学会でのブース展示など様々な機会をとらえて実施した。とりわけ住民と協同した活動は、段階的に自主的な活動へと誘うのに有効であると判断された。これらの活動はどちらの地域でも有効であり、より広範な地域に適用可能であるとみられる。単に専門家が記録し、解説したりする従来ありがちであった方式から、調査活動に自ら参加し、成果物を公表・共有するという過程を住民が経験するようシフトすることは、地域への誇りの醸成につながるものとなり、持続的な活動の礎になると考えられる。

このように、それぞれの地域の住民の方々はもとより、本研究には多数の研究者、行政、学校などの関係者の協力を得て、今後に発展・展開可能な貴重なデータや経験を得ることができた。

<引用文献>

①川宿田好見 (2007) 「カナダにおける博物館とその活動—日本の博物館の改善のために—」『鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告』4: 13-17.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計17件)

①川宿田好見、小豆島における SfM-MVS による文化財の記録と活用—小豆島による実践の試み—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.20 (通巻 40 号)、2018、55-58

②太郎良真妃、遺跡および周辺地形の三次元計測と写真記録を考える—SfM-MVS と簡易 LiDAR による実践から—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.20 (通巻 40 号)、2018、7-11

③川宿田好見、地域コミュニティと博物館活動と三次元記録、季刊考古学、査読無、第 140 号 (特集 3D 技術と考古学)、2017、72-75

④川宿田好見、地域と文化資源をつなぐ三次元記録とレプリカ、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.19 (通巻 39 号)、2017、70-73

⑤川宿田好見、小豆島における大坂城残石の記録と活用—SfM を用いた文化財の三次元記録とその活用—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.18 (通巻 38 号)、2017、1-3

⑥川宿田好見、小豆島におけるパブリックアーケオロジーの実践 (2) —持続可能な博物館活動の構築に向けて—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.18 (通巻 38 号)、2017、55-57

⑦川宿田好見、小豆島における文化遺産活用の検討—世界考古学会 Pre-Congress Tour を通じて—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.17 (通巻 37 号)、2016、42-46

⑧川宿田好見、現代石工の身体技法 (2) —香川県小豆島における花崗岩を割る技術—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.16 (通巻 36 号)、2016、49-51

⑨川宿田好見、小豆島におけるパブリックアーケオロジーの実践、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.16 (通巻 36 号)、2016、91-93

⑩川宿田好見、現代石工の身体技法—香川県小豆島における花崗岩を割る技術—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.15 (通巻 35 号)、2015、7-10

⑪平川ひろみ、中園聡、太郎良真妃、白井菜実、下小牧潤、若松花帆、楊帆、福留理佳、川宿田好見、鹿児島県三島村黒島の中世遺跡の調査成果—情報考古学的記録とパブリックアーケオロジーの実践—、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.15

(通巻 35 号)、2015、58-63

- ⑫川宿田好見、博物館活動の一環としての課外活動—香川県小豆島の事例一、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.15 (通巻 35 号)、2015、90-93
- ⑬川宿田好見、平川ひろみ、過去の矢穴痕から現代石工が考えた道具と動作—実験・専門知識・身体技法一、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.14 (通巻 34 号)、2015、46-47
- ⑭川宿田好見、平川ひろみ、太郎良真妃、白井菜実、離島における持続可能な博物館活動の展開へ向けて—鹿児島県三島村と香川県小豆島町におけるアンケート調査から一、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.14 (通巻 34 号)、2015、77-79
- ⑮川宿田好見、香川県小豆島町における昭和初期の石工道具の記録、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.14 (通巻 34 号)、2015、80-81
- ⑯川宿田好見、香川県小豆島町福田地区における博物館活動の展開、日本情報考古学会講演論文集、査読無、Vol.13 (通巻 33 号)、2014、69-71
- ⑰川宿田好見、未来に伝える石の文化—福田にのこる記憶から一、小豆島石の文化誕生シンポジウム資料集、小豆島町企画財政課、2014、41-56

[学会発表] (計 21 件)

- ①川宿田好見、小豆島の「石の文化」とパブリック考古学、日本情報考古学会第 40 回大会、2018 年 3 月 25 日、小豆島ふるさと村セミナーハウス (香川県小豆島町)、【招待講演】
- ②川宿田好見、小豆島における SfM-MVS による文化財の記録と活用—小豆島による実践の試み一、日本情報考古学会第 40 回大会、2018 年 3 月 24~25 日、小豆島ふるさと村セミナーハウス (香川県小豆島町)
- ③太郎良真妃、遺跡および周辺地形の三次元計測と写真記録を考える—SfM-MVS と簡易 LiDAR による実践から一、日本情報考古学会第 40 回大会、2018 年 3 月 24 日、小豆島ふるさと村セミナーハウス (香川県小豆島町)
- ④川宿田好見、地域資源の活用—博物館活動と三次元記録一、日本情報考古学会第 39 回大会&第 2 回雄山閣百周年記念シンポジウム、2017 年 10 月 28 日、明治大学駿河台キャンパス (東京都)、【招待講演】
- ⑤川宿田好見、地域と文化資源をつなぐ三次元記録とレプリカ、日本情報考古学会第 39 回大会、2017 年 10 月 28~29 日、明治大学駿河台キャンパス (東京都)
- ⑥川宿田好見、小豆島におけるパブリックアーケオロジ—実践 (2) —持続可能な博物館活動の構築に向けて一、日本情報考古学会第 38 回大会、2017 年 3 月 26 日、鹿

児島国際大学 (鹿児島県)

- ⑦川宿田好見、小豆島における大坂城残石の記録と活用—SfM を用いた文化財の三次元記録とその活用一、日本情報考古学会第 38 回大会、2017 年 3 月 25 日、鹿児島国際大学 (鹿児島県)
- ⑧川宿田好見、大坂城石垣石切丁場跡の活用と展開、シンポジウム史跡江戸城石垣石丁場跡の実像に迫る—国指定を記念して—、2016 年 11 月 5 日、小田原市立かもめ図書館視聴覚ホール (神奈川県)
- ⑨川宿田好見、小豆島における文化遺産活用の検討—世界考古学会議 Pre-Congress Tour を通じて一、日本情報考古学会第 37 回大会、2016 年 10 月 9 日、土浦市立博物館 (茨城県)
- ⑩Yoshimi Kawashukuda. Toward Sustainable Museum Activities in Isolated Japanese Islands: Case Studies on Mishima and Shodoshima Islands. *The 8th World Archaeology Congress in Kyoto (WAC-8 Kyoto)*. 2016 年 8 月 28 日~9 月 2 日、同志社大学 (京都府)
- ⑪Maki Tarora, Satoru Nakazono, Hiromi Hirakawa, Yoshimi Kawashukuda, Rie Kuroki, Kaho Wakamatsu. Three-dimensional Digital Documentation of “Common” Archaeological Artifacts and its Application: A Challenge in the Context of Japanese Archaeology. *The 8th World Archaeology Congress in Kyoto (WAC-8 Kyoto)*. 2016 年 8 月 28 日~9 月 2 日、同志社大学 (京都府)
- ⑫川宿田好見、現代石工の身体技法 (2) —香川県小豆島における花崗岩を割る技術一、日本情報考古学会第 36 回大会、2016 年 3 月 27 日、九州国立博物館 (福岡県)
- ⑬川宿田好見、小豆島におけるパブリックアーケオロジ—実践一、日本情報考古学会第 36 回大会、2016 年 3 月 26・27 日、九州国立博物館 (福岡県)
- ⑭平川ひろみ、中園聡、太郎良真妃、白井菜実、下小牧潤、若松花帆、楊帆、福留理佳、川宿田好見、鹿児島県三島村黒島の中世遺跡の調査成果—情報考古学的記録とパブリックアーケオロジ—実践一、日本情報考古学会第 35 回大会、2015 年 10 月 4 日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス (東京都)
- ⑮川宿田好見、博物館活動の一環としての課外活動—香川県小豆島の事例一、日本情報考古学会第 35 回大会、2015 年 10 月 3~4 日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス (東京都)
- ⑯川宿田好見、現代石工の身体技法—香川県小豆島における花崗岩を割る技術一、日本情報考古学会第 35 回大会、2015 年 10 月 3 日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス (東京都)
- ⑰川宿田好見、平川ひろみ、過去の矢穴痕から現代石工が考えた道具と動作—実験・専

門知識・身体技法一、日本情報考古学会第34回大会、2015年3月29日、大阪大学豊中キャンパス（大阪府）

- ⑱川宿田好見、平川ひろみ、太郎良真妃、白井菜実、離島における持続可能な博物館活動の展開へ向けて一鹿児島県三島村と香川県小豆島町におけるアンケート調査から一、日本情報考古学会第34回大会、2015年3月28～29日、大阪大学豊中キャンパス（大阪府）
- ⑲川宿田好見、香川県小豆島町における昭和初期の石工道具の記録、日本情報考古学会第34回大会、2015年3月28～29日、大阪大学豊中キャンパス（大阪府）
- ⑳川宿田好見、未来に伝える石の文化一福田にのこる記憶から一、小豆島石の文化誕生シンポジウム、2014年11月9日、福田体育館（福武ハウス）（香川県小豆島町）【招待講演】
- ㉑川宿田好見、香川県小豆島町福田地区における博物館活動の展開、日本情報考古学会第33回大会、2014年9月28日、東京農工大学小金井キャンパス（東京都）

〔その他〕（計8件）

- ①「小豆島における SfM-MVS による文化財の記録と活用一小学生による実践の試み一」の発表に関連して3Dレプリカの展示、日本情報考古学会第40回大会、2018年3月24～25日、小豆島ふるさと村セミナーハウス（香川県小豆島町）
- ②「地域と文化資源をつなぐ三次元記録とレプリカ」の発表に関連して三次元計測のデモ及び3Dレプリカの展示、日本情報考古学会第39回大会、2017年10月28～29日、明治大学駿河台キャンパス（東京都）
- ③雄山閣ホームページにおける「特集 3D 技術と考古学 特設ページ」（2017年7月25日公開）に「大坂城石垣石切丁場跡の残石（小豆島）」を掲載
http://www.yuzankaku.co.jp/user_data/special_3d.php
- ④ハンズオン展示「考古資料の三次元記録とレプリカ一香川県小豆島一」日本情報考古学会第38回大会、2017年3月25～26日、鹿児島国際大学（鹿児島県）
- ⑤ワークショップ「体験しよう！3Dの世界！楽しい！新しい！文化財記録の方法」小豆島町福田公民館子どもプロジェクト、2017年3月5日、小豆島町福田公民館（香川県）
- ⑥ブース展示「小豆島（石の魅力創造プロジェクト）」日本情報考古学会第35回大会、2015年10月3～4日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス（東京都）
- ⑦ブース展示「持続可能な博物館活動モデル構築へ向けて（代表 川宿田好見）」日本情報考古学会第35回大会、2015年10月3～4日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス（東京都）

⑧展示会「未来に伝える石の文化一福田にのこる記憶から一」、2014年7月19日～8月31日（毎日）、9月6日～11月3日（土日祝のみ）、期間終了後も希望者へ公開、旧福田小学校体育館（香川県小豆島町）、総来場者数1,348人

6. 研究組織

(1)研究代表者

川宿田 好見 （KAWASHUKUDA, Yoshimi）

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：40616166